



一関市に要請書を手渡す佐藤鉦一組合長と那須元一常務

4/25

## 資材高騰 支援などを要請

J Aは、食料の安定生産とウクライナ支援にかかる緊急支援要請を一関市と平泉町に行いました。資材高騰に対する生産者の不安払拭や農業経営への影響を緩和する支援策、食料安全保障の強化、備蓄米などを活用したウクライナへの食料支援などを要請しました。



出荷時の注意点を聞く生産者

4/25

## 最後まで適期収穫を徹底 J Aいちご生産部会

目ぞろえ会と中間実績検討会を開きました。管内の令和4年産イチゴ3月末時点の販売実績は、出荷数量が前年対比118%、販売金額が同112%。気温が高くなると過熟になりやすく収穫遅れに注意し、最後まで高品質イチゴを出荷することを確認しました。



接ぎ木を実践する生産者

4/22

## 接ぎ木苗作りのコツ学ぶ J Aきゅうり部会

キュウリ接ぎ木指導会を千葉郁也さん（室根）の育苗ハウスで開きました。参加した生産者は、茎が太い苗を作ることや、しおれないよう気を付けて作業することなどを確認しながら、断根片葉切断接ぎ木の方法で接ぎ木を実践し、接ぎ木のポイントを学びました。



定植機での実演を見学する生産者

4/28

## 栽培管理徹底で反収向上 J Aねぎ部会

ネギ栽培管理指導会を菅原英記さん（千厩）の圃場で開き、畑づくりや定植後の病害虫防除などの管理を確認し、簡易定植機ひっぱりくんにによる定植実演を行いました。令和4年度は葉タバコ廃作者など新規生産者5人が加わり72人が栽培に取り組みます。



面談で作業内容や雇用条件等を確認する参加者

4/27

## 労働力61組がマッチング

園芸農家の労働力確保のため、農作業パートナー・アルバイト募集説明会を2会場で開きました。園芸農家と求職者の面談形式で行われ、求職者は園芸農家のテーブルを回りながら、作業内容や労働条件などを聞いていました。条件の合った61組がマッチングしました。



4/28

**金色の風  
育苗ハウス巡回  
金色の風栽培研究会**



苗の生育状況を確認する関係者

令和4年度に県ブランド米「金色の風」を栽培する生産者の育苗ハウスを巡回しました。一関農業改良普及センターとJA職員が2班体制でJA管内で栽培する40人のうち29人の生産者を巡回し、苗の生育状況を見ながら田植え時期や温度管理などを指導しました。

4/28

**促成キュウリ出荷始まる  
JAきゅうり部会**



出荷時の注意点を聞く生産者

促成キュウリ出荷規格指導会を永井野菜集出荷場で開き、販売状況や出荷規格を指導した他、3圃場を巡回し生育状況を確認しました。管内のキュウリ出荷は、4月中旬から11月末まで続きます。令和4年度は、出荷数量1012ト、2億7千万円を目指します。

5/9

**実践通して誘引作業習得  
JAピーマン部会**



苦戦しながら誘引方法を習得する新規生産者

新規生産者誘引指導会を(農)ふる砂徳ファーム(藤沢)の圃場で開きました。定植実演会で定植したピーマンの誘引の仕方を2人1組で実践し学びました。ピーマンの成長に合わせて誘引したひもを上下に調整できるように、張りやたるみなども確認しました。

5/9

**農作業通じ地域農業学ぶ**



遠藤清春さん(一関)の水田で研修する新人職員

令和4年度新採用職員の農業研修が、営農組合や農家、水稻育苗センターで行われ、田植えなどの農作業や水稻苗の配達準備など育苗センター業務を体験しました。地域農業に理解を深めることで、組合員の立場に立った対応ができる職員の育成を目指します。

5/9

**地域の意識高める共励会  
涌津第三農家組合(花泉)**



苗の根張りを確認する生産者とJA職員

良質米生産と地域の連帯のため育苗共励会を開きました。組合員とJA職員が地域内の水稻育苗ハウスを巡回し、草丈、葉齢、そろい具合などを審査しました。千葉繁年組合長は「ハウスを見て回ることで地域全体の米作りに対する意識が高まる」と話しました。



青空の下、広い牧場ででのびのび過ごす牛

**5/6**  
**公共牧場の  
放牧スタート**

J Aが指定管理を受けている公共牧場の令和4年度開牧式と安全祈願祭を須川牧場と室根高原牧野で開きました。佐藤鉦一組合長は「公共牧場の利用で、生産者の負託に応えられるよう管理をしていきたい」と管内の畜産振興とシーズン中の安全を祈願しました。



野菜づくりについて理解を深めた講習会

**5/10**

**先人の知恵で野菜づくり**  
**J A 女性部大東中央支部興田支部**

野菜づくり講習会を開き、J A千厩営農経済センター渡邊満明センター長が講師を務めました。テーマは「野菜作りは先人の知恵で」。部員らは化学肥料をいかに使わずに野菜を作るかを、堆肥やあくの成分やことわざを用いた分かりやすい説明で理解を深めました。



目ぞろえする生産者

**5/10**

**出荷規格厳守し良質出荷**  
**J A 野菜部会豆専門部**

スナップエンドウ目ぞろえ会をJ A南部園芸センターで開き、出荷体制や出荷規格を確認しました。J A園芸課の菅原夏音職員は「緑化の低下前に収穫し、さやの扱いは丁寧に傷が付かないようにしてほしい」と収穫や選別の注意事項を呼び掛けました。



栽培管理について情報交換する参加者

**5/20**

**情報交換で技術を研さん**  
**J A トマト部会担い手班**

定例会を開き、管内の圃場3カ所を巡回し、生育状況や栽培技術など班員同士で相互研修しました。J A江刺の若手生産者も参加し、参加者は生育状況や病害虫の発生状況を確認したり、温度管理や使用する資材について積極的に情報交換し、交流を図りました。



水稻育苗に理解を深める生徒

**5/13**

**水稻育苗施設の役割学ぶ**  
**県立千厩高校**

生産技術科生産科コース2年生14人は、J A室根水稻育苗センターを見学しました。J A室根営農経済センターの加藤哲也センター長が管内の水稻の作付状況や育苗施設の役割、概要を説明し、生徒たちは施設などを見ながら水稻の育苗について学びました。





### 4/25 室根小学校

2年生24人は、千葉寿男さん（室根）のハウスで、ピーマンの定植を体験しました。

## 笑顔あふれる 農業体験

各地で田植えなどの農業体験が行われ、JA青年部や水田所有者が苗の植え方などを指導しました。



### 5/10 滝沢小学校（一関）

JA一関青年部真滝支部の指導で、5年生19人が4月に種をまいたひとめぼれの苗を手で植えました。



### 5/9 黄海小学校（藤沢）

5年生15人は、黄海老人クラブや耕作支援隊の指導で、手植えと機械植えの田植を体験しました。



### 5/11 川崎小学校

5年生23人は、（農）門崎ファームの所有する絶滅危惧種のメダカが生息する田んぼで田植を行いました。



### 5/11 巖美小学校（一関）

5年生17人は、JA佐藤克徳営農部長所有の水田で手植えと田植え機の乗車体験を行いました。



### 5/17 赤荻小学校（一関）

5年生51人は、水田所有者阿部邦弘さん（一関）の水田にコシヒカリの苗を丁寧に手植えました。



### 5/13 金沢小学校（花泉）

水田所有者の佐々木弘さん（花泉）とJA花泉青年部金沢支部の指導で、手植えと機械植を体験しました。



### 5/12 平泉小学校

JA平泉青年部の指導で、5年生38人が田植え体験をしました。6月には生き物や雑草調査を行う予定です。



### 5/24 黄海こども園（藤沢）

3、4、5歳児26人は、JA藤沢青年部の指導で、サツマイモの苗植えとトウモロコシの種まきをしました。



### 5/24 弥栄幼稚園（一関）

3、4、5歳児8人は、JA一関青年部弥栄支部の指導で、園内の畑にサツマイモの苗を植えました。



### 5/20 龍澤寺こども園（一関）

5歳児35人は、JA一関青年部中里支部員と一緒に、どろんこになりながら、こがねもちを手植えました。